

令和 4 年度 京都市国民健康保険事業特別会計決算概要

1 基礎計数

項 目	4 年度予算 (A)	4 年度決算 (B)	差引 (B - A)	(参考) 3 年度実績
一般被保険者数 (年間平均)	283, 000人	283, 000人	0人	291, 262人
一般世帯数 (年間平均)	197, 000世帯	198, 740世帯	1, 740世帯	200, 908世帯
一般総医療費	114, 919百万円	113, 703百万円	△1, 216百万円	115, 205百万円
一般1人当たりレセプト件数	15. 82件	16. 08件	0. 26件	15. 78件
一般1件当たり医療費	25, 669円	24, 991円	△678円	25, 062円
一般1人当たり医療費	406, 074円	401, 779円	△4, 295円	395, 538円

ポイント

○ 一般総医療費の見込減

高齢化の進展や医療の高度化等を考慮し、一定の伸び率を見込んで医療費の予算編成を行ったが、1人当たり医療費が想定ほど伸びなかったことから、総医療費が見込みよりも減少した。

2 財政状況

(単位:百万円)

項 目			4 年度 予算額(A)	4 年度 決算額(B)	差引 (B - A)		(参考) 3 年度決算 額(C)	増△減 (B-C)
一般医療分	歳入	保険料	16,093	15,922	△ 171	※②	15,455	467
		国庫支出金	54	36	△ 18		689	△ 653
		府支出金	98,590	100,403	1,813	※③	100,153	250
		一般会計繰入金	12,145	12,281	136		12,111	170
		基金繰入金	1,240	1,240	0		0	1,240
		その他	228	359	131	※④	291	68
		小計	128,350	130,241	1,891		129,299	942
	歳出	給付費	97,930	97,313	△ 617	※③	98,616	△ 1,303
		納付金	25,520	25,520	0		23,431	2,089
		保健事業費	1,084	1,029	△ 55		920	109
		基金積立金	0	1,800	1,800	※①	2,700	△ 900
		その他	3,816	3,583	△ 233	※④	3,765	△ 182
		小計	128,350	129,245	895		129,432	△ 187
	差引過△不足額		0	996	996		△ 133	1,129
後期高齢者支援分	歳入	保険料	5,742	5,659	△ 83	※②	5,571	88
		一般会計繰入金	2,405	2,449	44		2,430	19
		小計	8,147	8,108	△ 39		8,001	107
	歳出	納付金	8,147	8,147	0		8,466	△ 319
		小計	8,147	8,147	0		8,466	△ 319
	差引過△不足額		0	△ 39	△ 39		△ 465	426
介護分	歳入	保険料	2,024	2,045	21	※②	1,911	134
		一般会計繰入金	847	869	22		827	42
		基金繰入金	600	600	0		0	600
		小計	3,471	3,514	43		2,738	776
	歳出	納付金	3,471	3,471	0		3,268	203
		小計	3,471	3,471	0		3,268	203
差引過△不足額		0	43	43		△ 530	573	
退職者等医療分	歳入	保険料	0	0	0	※②	1	△ 1
		府支出金	2	0	△ 2		0	0
		その他	1	0	△ 1		1	△ 1
		小計	3	0	△ 3		2	△ 2
	歳出	給付費	3	0	△ 3		0	0
		納付金	0	0	0		0	0
		その他	0	0	0		0	0
		小計	3	0	△ 3		0	0
	差引過△不足額		0	0	0		2	△ 2
	歳入合計 (A)		139,971	141,863	1,892		140,040	1,823
	歳出合計 (B)		139,971	140,863	892		141,166	△ 303
単年度収支 (A - B)		0	1,000	1,000		△ 1,126	2,126	

◎一般会計繰入金の内訳

(単位:百万円)

	4 年度 予算額(A)	4 年度 決算額(B)	差引 (B - A)	(参考) 3 年度決算 額(C)	増△減 (B-C)
保険基盤安定繰入金等	8,988	9,188	200	8,937	251
財政支援分繰入金	6,409	6,411	2	8,229	△ 1,818
計	15,397	15,599	202	16,339	△ 1,567

◎基金保有額の状況

(単位:百万円)

3年度末基金保有額		4,540
4年度基金取崩額	令和4年度予算に活用	△ 1,840
4年度基金積立額	令和3年度の累積黒字	1,800
4年度末基金保有額		4,500

単年度黒字の主な要因

合計 10億円
(括弧内の金額は収支への影響額)

① 国保事業基金への積み立て(△18億円)

令和6年度以降の納付金の増加に対応するため、令和3年度累積黒字18億円を国保事業基金に積み立てた。

② 保険料収入の増(+9億円)

新型コロナウイルス感染症特例減免により9億円の減免を実施したこと、法定軽減が見込よりも2億円増加したことにより、保険料収入が11億円減少する見込みであったが、徴収率の向上や被保険者の所得の増加によって保険料収入は2億円の減収に留まった。

③ 府支出金の増(+15億円)

予算編成段階では見込んでいなかった制度改正に係るシステム改修費分や、府特別交付金の経営評価分等が、想定よりも確保できた。

給付費の執行額は6億円減少しており、財源である府支出金も同額減少する見込みであったが、18億円の増加となっている。

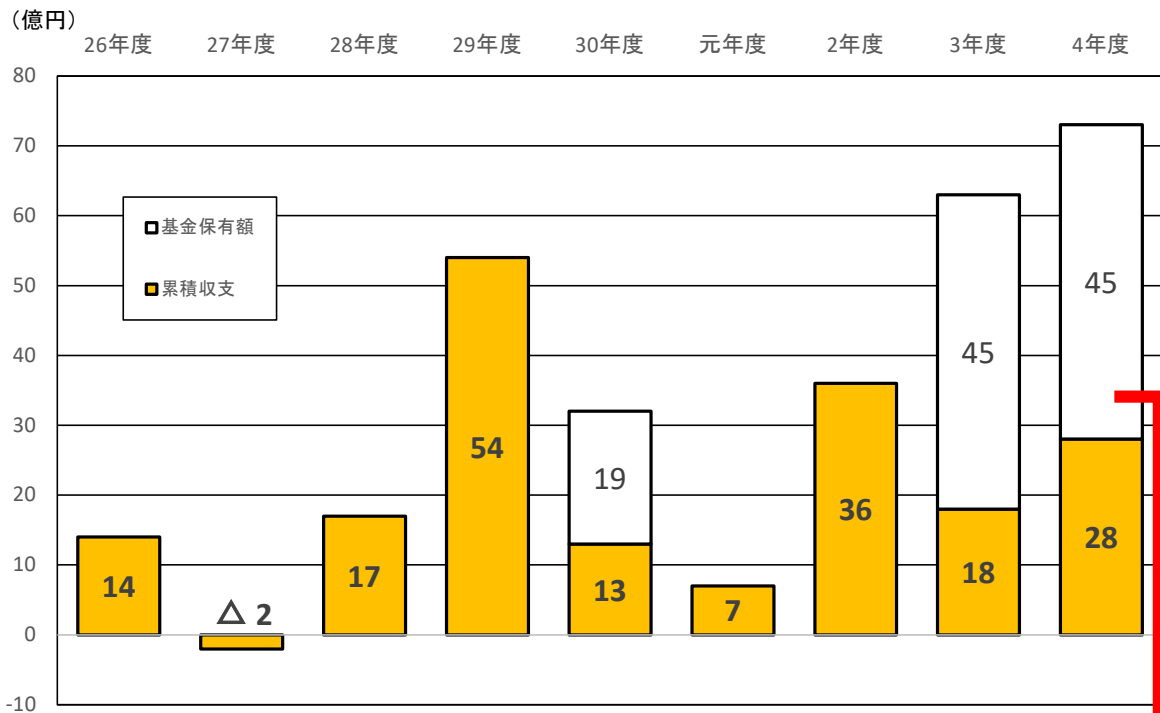
差額の24億円の増加分にはコロナ特例減免に係る府支出金の9億円が含まれており、これは保険料の減免額と相殺されるため、15億円の黒字要素となる。

※このうち9億円は府からの過大交付によるものであり、5年度府支出金を減額することにより調整される予定(5年度における赤字要素となる)。

④ その他経費の執行残等(+4億円)

ただし、「①国保事業基金への積み立て(△18億円)」の影響を除くと、単年度収支は28億円の黒字となる。

3 累積収支の推移



基金保有額のうち、22億円は
令和5年度予算で活用（残額23億円）

令和4年度末累積収支 28億円の黒字

令和4年度決算見込においては、単年度収支は10億円の黒字となり、累積収支は28億円の黒字となった。（28億円には府からの過大交付分9億円が含まれており、この9億円は5年度の府支出金を減額して調整されるため、5年度における赤字要素となる。このため、28億円のうち9億円は令和5年度における赤字要素の補填に活用予定のため、実質的な黒字は19億円となる。）

国保基金保有額は、令和4年度において、令和4年度の保険料の引上げ幅の抑制のために18億円を活用する一方で、令和3年度累積黒字18億円を積み立てたため、令和4年度末で45億円となった（うち、22億円は令和5年度予算で活用）。

令和4年度決算見込における累積黒字28億円のうち、令和5年度府交付金における赤字要素の補填に活用予定の9億円を除いた19億円と、国保基金の残高である23億円については、令和6年度以降の納付金の急激な増加に備える等、被保険者の負担を軽減するために活用していく。

引き続き、保険料の徴収率向上等による歳入の確保に努め、後発医薬品の普及啓発、特定健康診査や健康啓発事業等による被保険者の健康づくりなど医療費の適正化を推進し、国保運営の安定化に努めていくとともに、被保険者が将来にわたり安心して医療を受けられる制度となるよう国を保険者とした医療保険制度の一本化と、それが実現するまでの間の更なる財政支援の拡充について国に対して強く要望していく。